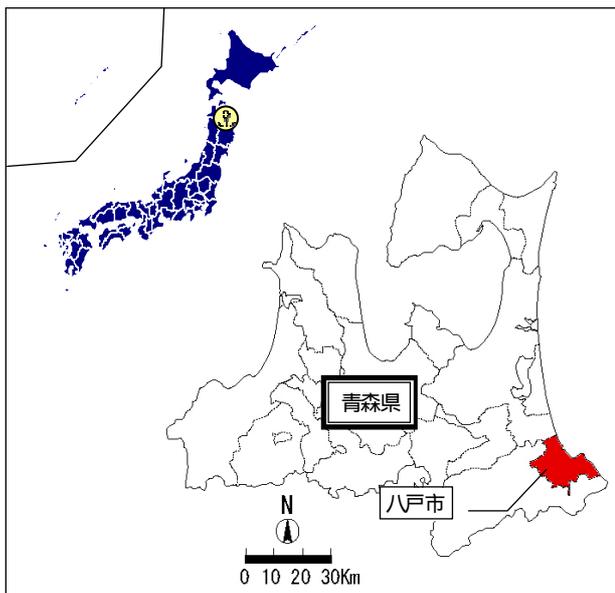


地元の『食』による観光交流拠点を目指したみなとまちづくり(八戸港)

地域の現状



【八戸港の全景】

八戸港(重要港湾)
 港湾管理者: 青森県
 取組実施市町村: 青森県八戸市
 人口: 約244千人(平成16年9月30日 住民基本台帳)
 観光客数: 約479万人(平成15年 八戸市調べ)

北東北の国際物流拠点としてのみなと

八戸港は、昭和14年に貿易港としての開港指定とともに着々と整備が進められ、昭和39年に「新産業都市」の指定を受けたことを契機に、北東北でも有数の重要港湾として発展してきた。

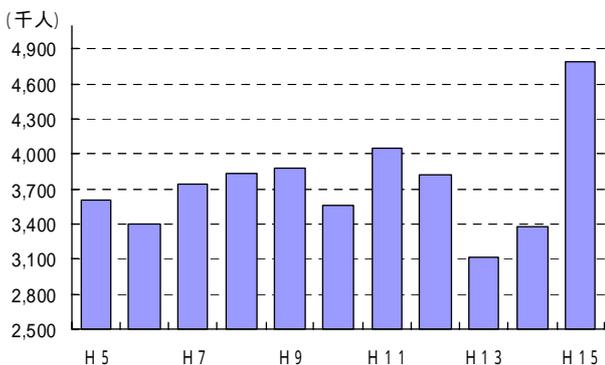
平成6年に東北初となる東南アジア定期コンテナ航路を開設したのを皮切りに、韓国、北米西岸航路、及び内航定期航路などを積極的に開設し、平成8年には輸入促進地域 (FAZ) に指定され、年間約3,000万トンの貨物を取り扱う国際物流拠点港となっている。

地域の課題

産業重視の整備を続けてきた一方で、中心市街地とみなとの関わりが薄く、交通アクセスも悪いなど、市民をみなとから遠ざけてきた。

ポートアイランド、マリエント、館鼻周辺など潜在的な地域資源はあるものの、有効に活用できず、観光拠点である鯨島周辺の整備が不十分であるなど、観光客をみなとに誘導するに及んでいない。さらに、背後の商店街も観光客を集客できていないのが現状である。

リサイクルポートの指定や環境・エネルギー産業創造特区の指定を受け、循環型社会への対応も重要な事業になってきている一方で、「まち」と「みなと」のつながりが求められている。



【観光入込客数の推移】

地元の『食』による観光交流拠点を目指したみなとまちづくり(八戸港)



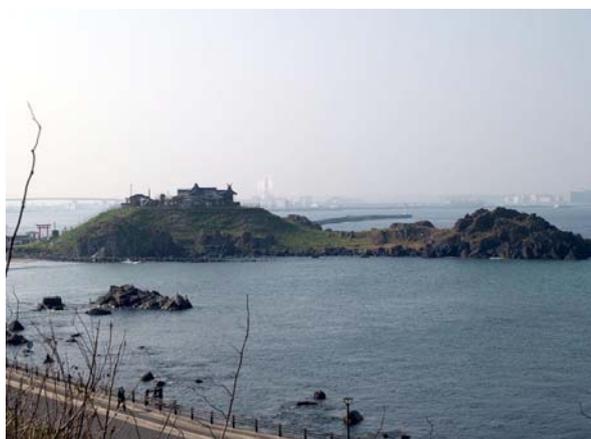
【せんべい汁】



【いちご煮】



【日曜朝市】



【蕪島(かぶしま)】

みなとまちづくりの目標

『海のステーション』を活用したみなとまちづくり

八戸のみなと活性化のため、各エリアを「海のステーション」として情報発信拠点・交流拠点として活用し、また各駅をネットワーク化することで地元住民、観光客をみなとに誘導する。

そのために、みなとと中心市街地を結ぶ日曜朝市循環バスの運行、みなと周辺のガイドマップの作成などに取り組んでいる。

また、「食」にこだわり、みなとでの飲食・物産販売を促進し、地元での消費額の増加を見込んだみなとまちづくりを目指す。

活用したみなとの資産

イカに代表される豊かな地元特産品・郷土料理

イカの街「八戸」は、イカの水揚げでは、日本の約3割を占め全国第1位である。新鮮なウニとアワビでお吸物風に仕立てた“いちご煮”は郷土料理で有名である。

日曜朝市

冬場を除く毎週日曜日にみなと周辺で開催されている朝市はみなと八戸の顔であり、市民の台所、観光名所となっている。

蕪島(かぶしま)

ウミネコの繁殖地として天然記念物に指定されており、毎年3月中旬頃に南方から数万羽のウミネコが飛来し産卵する。島に黄色い蕪の花が咲く4月頃に雛がかえり、飛行できるようになる夏の終わりに再び南方へ旅立つ。

取組体制

各事業を実施するにあたり、「はちのへ・みなとまちづくりネットワーク協議会」を設立し、官民が連携して取り組む体制を作り上げた。

はちのへ・みなとまちづくり ネットワーク協議会

事務局：八戸商工会議所青年部

会 員：NPO 法人海の八戸 NPO 等

地区観光協会、各町内連合会

八戸港振興協会等

八戸市

↑
支援等

顧 問：東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所長

青森県県土整備部八戸港管理所長

青森県農林水産部三八地方漁港漁場整備事務所長

【取組体制】

地元の『食』による観光交流拠点を目指したみなとまちづくり(八戸港)

青森県(港湾管理者)

- ・施設使用許可(埠頭・岸壁等)

八戸市

- ・日曜朝市循環バスの運行
- ・情報提供
- ・広報PR

八戸港湾・空港整備事務所(国)

- ・情報提供
- ・広報PR

はちのへ・みなとまちづくりネットワーク協議会

- ・事務局(八戸商工会議所青年部)として各団体間の連絡・調整、打ち合わせ場所の提供

支援・協力

NPO 法人 海の八戸 NPO

【取り組み内容】

- ・海のステーションたてはなの運営

【取り組み内容】

- ・海のステーションさめの運営

【海のステーション設置の取組体制】



【海のステーションたてはな】



【海のステーションさめ】



【海のステーションさめ パネル展示】

「海のステーション」設置によるみなとまちづくり

取組体制

取り組みにあたって、「はちのへ・みなとまちづくりネットワーク協議会」が、2つの海のステーションを運営する各団体に対して、連絡、調整等を行い、行政(国、県、市)が支援・協力を行った。



【「海のステーション」位置図】

海のステーションたてはな = 館鼻地区

取組概要

海の観光総合案内所を開設し、観光客にパンフレット等を配布した。物産店、朝市、食事スペース等を開設し、市民や観光客に飲食サービスなどを提供した。

実施日:平成16年7月1日~12月31日

場所:旧ウォッサンを中心とした館鼻地区

来訪者数:10万人(うち県外2万人)

海のステーションさめ = 鮫地区

取組概要

海に関する資料館を開設し、写真やパネルなどの展示を行った。観光案内所兼無料休憩所を運営し、観光客向けに情報を提供した。

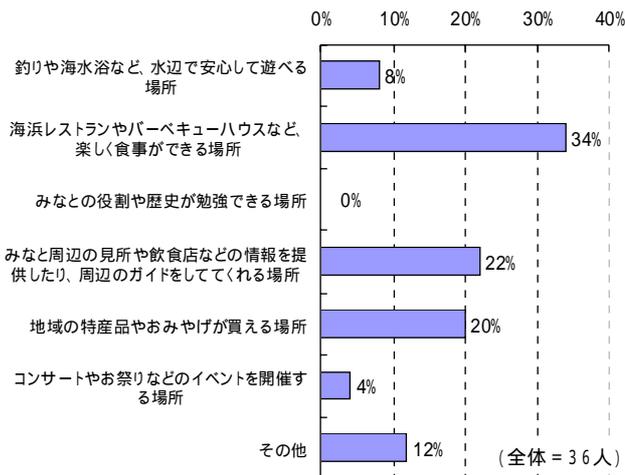
実施日:平成16年6月20日~11月28日

場所:旧日新漁業事務所を中心とした鮫地区

来訪者数:440人(うち県外201人)

地元の『食』による観光交流拠点を目指したみなとまちづくり(八戸港)

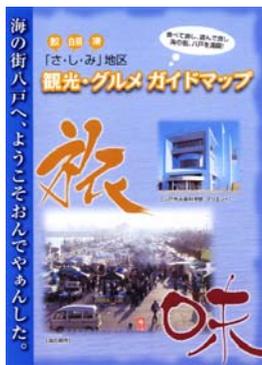
大型イベントとの連携により大盛況



【海のステーションに望むもの】



【連携事業「みなと博ランカイ」】



【みなとのガイドマップ】

取組成果

海のステーションたてはな

- 本年から開始された海の日曜朝市には1日平均1万人の来場者があり、また、「みなと博ランカイ」等といった大型イベントと連携したことにより、海のステーションへの入場者数も10万人を数え、みなとが活性化された。
- 中心市街地とみなとを結ぶ「ワンコインバス・いさば号」の運行が好評であり、みなとへのアクセス向上が図られた。
- 参加者の意見としては、「施設を充実させて欲しい」「お土産品売場を作って欲しい」「温泉施設や地元の魚が食べられる施設が欲しい」といった積極的な意見が寄せられた。

海のステーションさめ

- 海のステーションに隣接して広い駐車場があるものの、そこから100mもない所にある観光名所の燕島の前まで観光バスが入ってしまうため、団体客があまり立ち寄りず、マイカー等で訪れる個人客が目立った。
- 多くの集客が期待できる「さめ味覚まつり」が台風の影響で中止になったため、思った程の集客が得られなかった。

ガイドマップ作成によりみなとをPR

みなとのガイドマップ作成

取組概要

八戸のみなとを内外に強力にPRするため、みなと周辺の飲食店や観光情報を掲載したガイドマップを作成し、観光案内所等で無料配布されている。

製作期間：平成16年9月～平成17年3月

作成部数：5,000部(無料配布)

製作段階で製作への意欲が高まる

取組の成果

- ガイドマップの作成にあたっては、「おさしみ地区」(鮫、白銀、湊の地名の頭文字から)の隠れた名店や広く知られていない資産を掘り起こし、個性的なマップを作った方がよいとの積極的な意見が出された。

今後のみなとまちづくりの取り組みへ

「海のステーション」の恒久的運営

「海のステーション」たてはな(海の八戸NPO)さめ(鮫観光協会)を開設し、バーベキューレストラン、物産店、海の見える温泉等の実施する(海の八戸NPO、鮫観光協会)。イベント広場でのイベント(海の朝市、スポーツ遊戯施設等)を開催する(NPO等)。

みなとのガイドマップの継続的作成、配布

はちのへみなとのガイドマップの作成及び観光案内所で配布する(みなとまちづくりネットワーク協議会)。

「海のステーション」のネットワーク化、アクセス向上

中心市街地からみなとへのアクセス向上を図るため、ワンコインバスを運行させる(市)。

はちのへみなとまちづくりネットワーク協議会の継続

みなとに関するイベントの共同プロモーション実施(NPO等) みなと色彩計画等の検討(八戸商工会議所等) みなとまちづくり研修、視察の実施、シンポジウムを開催する(八戸商工会議所青年部等)。